

あなたの周りにいる人、
あなたの周りにあるもの、
すべてがあなたの先生です。

ケン・ケイエス・ジュニア

研究分野の広さ、 学際空間へ飛びこめる 懐の深さが新大の魅力

我が法学部の魅力
アジア、特に中国とのつながりが持てた。
懐の深さが新潟大学法学部の魅力。

法学部 法政コミュニケーション学科 3年
伊藤 みのり

私は入学以前より中国に興味を持っていましたが、法学部の中国サマーセミナーに参加して以来、ますます関心が高まりました。サマーセミナーでは、今までは想像し



私が見た新潟と新潟大学
法学部の研究分野が広い。日本の大学生は、勉強してなさそうでちゃんとしている

大学院 法学研究科 1年
マクブール・ローハーン

私は今年の四月から新潟大学大学院法学研究科に通っています。おととしまで、新潟産業大学で勉強していました。私の研究テーマは、現代社会におけるマス・メディアの役割で、その中でも教育とマス・メディアの関わり合いです。現在は、情報技術の変化に対してマス・メディアがどう対応していくのか、そのあり方を探っています。

四月から二ヶ月間という短い期間のなかでも、法学部の研究分野が考えていたよりも広がったので自分の専攻テーマへの関心が良く深まりました。また、大学院での授業が語学力の養成に力を入れており、研究する際の語学力の必要性を改めて実感しました。

私は新潟に約六年間、日本には約八年間住んでいますので、新潟の(日本も)気候、学生生活に慣れていました。私が以前から思っていたことですが、日本の大学生は勉強してなさそうでちゃんと勉強していることです。以前、つまらなそうに講義を聞いていた学生がテストの際に高得点を取っているのを見て驚いたことがあります。また、学内での学生たちの行動や生活姿などがそう感じさせます。母国(スリランカ)の大学生は街の中でも見ただけでそれとわかる雰囲気を持たせています。

よく言われることで、日本の大学は、入学が難しく、卒業が比較的楽だというのがあります。私の母国ではアメリカと同様、入学が楽(難しいかもしれませんが)で、卒業が難しいです。その他に、大学生を見る社会の意識の違いもあるのではないかと考えると、非常に興味深いです。

個と個、研究と研究、学際領域の中で 総合大学の魅力が生まれる。



本人前列左から2番目

かできなかった中国の空気に実際に触れ、未知の体験をし、そして帰国後は夢中で中国に関する勉強をしました。そのかいあって、今年の九月から北京大学国際関係学院への留学が決まり、更に勉強する機会を得ました。

また、それがきっかけで知り合った中国からの留学生と、お互いの空き時間を見つけては一緒に日本語や中国語の勉強をし、勉強以外にもお互いの国の文化や社会、政治など様々な話題について話をするようになりました。法学部でありながら国際関係を中心に学んでいます。このような懐の広さが、我が法学部の特徴なのだと思います。大学に入って夢中になれることを見つけたこと、同じ目標を持つ友人ができたことは人生の中で大きな収穫であり、私は今、最高に充実した生活を送っていると胸を張って言うことができます。

総合大学としての
新潟大学の魅力

大学というフィールド

「友(いろんな人)と語り合う」
ことに大学の魅力を見出そうとしてきた

経済学部 経済学科 3年
相馬 崇宏

大学の四年間は、何も行動しなかったらあっという間に終わってしまう。何かしらのモチベーションに自分を駆りたたせなければならないと思う。その何かというのは個人個人で違うものだろうし、その何かは漠然的なもので、途中で見つけることを放棄してしまう。そして日々の生活がいたって単調であると感じてしまう人がけっこう多いのではないかな。

僕は、「友(いろんな人)と語り合う」ことに大学の魅力を見出そうとしてきた。飲み会をしている時など、ふと何かについて深く考え論じあっている自分達に気付く。そして、そこで総合大学である新潟大学の魅力が十分に発揮される。それは、やはり学部が多いということで様々な知識をもった人達に出会える確率が増えるので、活発な論議(ちょっと硬い表現かも)ができることだ。そういうわけでどんなことでもいいからとりあえず与えられた「大学というフィールド」をうまく活用してみてはどうだろうか。



語り合うことが、育て合うこと。
大学の魅力は、出会いの中で生まれる。

新潟大学受験時の希望と現実

人格間の密度の高い相互作用が個の輪郭と内実を育てる。
自分だけのあり方をつかみたい

経済学部 経営学科 3年
小野塚 茜

私が新潟大学の受験を考えるようになったのは、高校二年生の秋でした。商業高校の生徒であった私には、就職という選択肢もありました。しかし、高校を卒業してこのまま社会人としての生活にはいるには自分があまりにも未熟である気がしました。将来社会に出る準備として自分の個性、他人との強調という面で成長しなくてはなりません。また、進学して高校で学んだ商業科目を活かしたより専門的な知識を身につけたいと考えました。そこで、進学先として頭に浮かんだのが新潟大学でした。県内出身者としては、新潟県内にある国立大学ということで親近感があり、進学するならば新潟大学で学びたいと思ひ決意しました。

実際に新潟大学に入学してから早くも三年目になりました。実際の大学生活の中では日々、様々な人に接する機会があります。専門のゼミのみならず、講義を通して親しくなった友達、母校の同じ仲間。こうした、人と人とのコミュニケーションが私の人格形成に大きく寄与してくれるものだと思います。高校時までとは異なる、自我間の或いは人格間の密度の高い相互作用が個の輪郭と内実を育てるのではないのでしょうか。

親元を離れ、大学生活を送っていく中で入学時の希望を忘れかけていたような気がします。残された大学生活の中で、仲間と切磋琢磨しながら「自分だけのあり方」を掴みたいです。



読んで聴いて
BOOKS

BOOKS

2001年5月トップ3

3位の「それがぼくには楽しかったから」あのLINUXを作ったリーナス・トーバルズ氏の自伝です。彼の考える「オープン・ソース」とはどのような考え方なのか。コンピュータに関心のない人にも示唆に富みます。

No.1

模倣犯(上・下)

宮部みゆき(小学館)

No.2

十二番目の天使

マンディーノ(求龍堂)

No.3

それがぼくには楽しかったから

トーバルズ(小学館)

総合大学としての
新潟大学の魅力